

課題名

31. ジベレリン散布による宮内伊予柑の着花調節について

成果の要約

ジベレリン散布によって着花数が減り、発育枝の発生が多くなった。

成

- (1) ジベレリンの散布によって結果母枝当たりの直花の単生花の数に有意差が認められ、散布濃度が高いほど翌年の着花数が少なくなる傾向にあった。
- (2) 発育枝の発生数に有意差が認められ、散布濃度が高いほど発育枝の発生数が多くなった。
- (3) 散布濃度が高いほど1果平均重が大きくなる傾向にあり、100ppmを散布した区で4L果の割合が高くなった。

第1表 結果母枝当たりの着花数と発育枝の発生

処理区	有 葉 花			直 花			花 合 計	発育枝
	総 状	単 生	計	総 状	単 生	計		
ppm								本
100	0.2	0.4	0.6	0.1	0.2	0.3	0.9	2.2
50	0.2	0.8	1.0	0.1	0.7	0.8	1.9	1.7
25	0.3	0.5	0.8	0.5	1.1	1.6	2.4	0.9
無散布	0.3	0.5	0.8	0.3	2.2	2.5	3.3	0.8
有意性	NS	NS	NS	NS	*	NS	NS	**

績

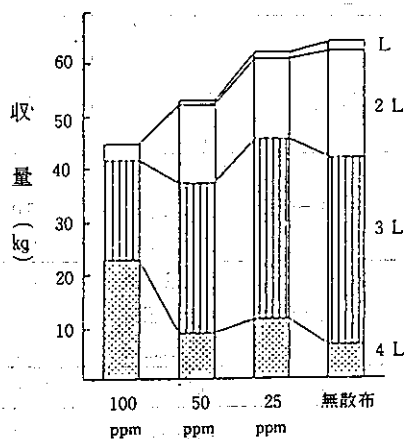
概

第2表 1樹当たり収穫果実数と

1果平均重

処理区	果実数	1果平均重
ppm	個	g
100	114	397
50	151	355
25	179	352
無散布	188	344
有意性	NS	NS

(昭60長崎果試)



第1図 1樹当たりの収量と果実の階級構成

要

普及上の留意点

- 1. ジベレリンの散布によって着花が減りすぎることもある。
- 2. 樹勢維持は、つとめて土づくり等で図るようにする。